

DEPARTURES

SPRING 2018

Travel Issue

AFRICA

砂漠に魅せられて

PACIFIC

東京の朝を味わう

EUROPE

造形美の軌跡

ASIA

隠れ家の誘惑

AMERICA

華やかな春のリズム

CREATIVE CACHE

分野の隔たりを越え、新しい境地を開拓する旬のクリエイターたち。TEXT: HIROKO KAMOGAWA

ARCHITECTURE

HIROSHI NAKAMURA

才能ある建築家が手がける次なる
ランドスケープ——それは彼を取り囲む
環境を進化させ、敬意を表すこと。

洗練された日本のコンテンポラリーデザインにわずかにロマンを吹き込むようなエレガントな美観を実現し、東京を拠点とする建築家・中村拓志氏は日本の最もエキサイティングな若手建築家集団のトップに躍り出た。彼の国内における主たる作品には住居、文化施設、宗教会館、そして東京国際空港のリノベーションなどがある。最新の注目作品には、結婚を象徴するような外側の2つの階段を設えた「リボンチャペル (Ribon Chapel)」がある。また、「オプティカル・グラス・ハウス (Optical Glass House)」も異彩を放つ。広島郊外に立つこの作品は、道路に面して6000個のレンガ状ガラスの壁を構築し、中庭に光を取り込む。「地形、あるいは自然に寄り添うような建築をめざしている。すなわち環境を尊重するような建築を」——建築界のレジェンド、隈研吾氏のもとで研鑽を積んだ中村氏は語る。「行動に依拠するデザインは自然というものに敬意を払い、それぞれが私の作品のシグネチャーとなる」と。nakam.info - Natalia Rachlin



STORIES UNFOLD

AIKO TEZUKA

紡がれた“時間”と“空間”の狭間にある多重性。

「私たちはだれしも、不可逆な時間のなかで、ひとつの機会にひとつのものしか選ぶことができません」と語る手塚愛子氏の作品は、既成のものや、もしくは自身がデザインした織物や布が、氏により長い時間をかけて解かれ、または手が増えられる。そして、それまではある一部分であったり、表面からは見えることのなかった内なるもの（糸）が抽出され、観るものに“時間性”を意図的に開示することに成功している。織物を媒体とした制作を続けていることについて、氏は言う。「織物や縫い物に特有の、“元に戻すことができる”という性質を使って、私が考えてきた“仮想的に時間を巻き戻すこと”が、イメージとしてではなく構造的に、目の前の作品で実現できる。イメージとして作品をつくるということはいくらでも可能だが、私にとって最も大事だったことは、実際にその構造を目の前で起こして見せること」なのだ。自身がデザインした手塚氏の代表作のひとつ、『Ghost | met』では、日本、またヨーロッパ大陸の、古くは7世紀まで遡るさまざまな歴史的モチーフが幾重にも重なりあい、見え隠れしながら、左右に対峙する大作だ。まるで言葉や歴史が紡がれるように、この日本を代表する作家の作品は、“時間”と“空間”の2つの軸とともに、“不可逆的なもの”に問いかけ続けていく。aikotezuka.com